

三つ屋根の家

プランニング: 伊藤建築設計室
2008.01

「外部編」



家族の一員の存在、愛着を感じながら一緒に過していく家、そういうことをイメージしながら計画すると、こんな家になりました。

「うーん、建築家に頼まなくてもいいような。インパクト無いというか、普通な感じというか・・・」

建築家の設計する家という、大きな窓で開放感があって、シンプルな感じ(写真1)があります。

でも、「愛着を感じる」というと、ちょっと冷たい感じがするので違うような。カッコいいので、こんな家を持っていることの満足感はあるんですが、「家族の一員」という身近な存在じゃないような。

身近な存在 側に居ても違和感が無い自然な感じ 普通な存在

と考えていくと、当然外観は普通になっていくんですね。



1

写真1

外壁の色使いですが、柔らかい色の方が温かみがあります。真っ白だとちょっと冷たい感じがするし、真っ黒だと存在感が強すぎます。

タイルや石を張ったり、モールなどの化粧材を取り付けるのは、部分的にアクセントをつけたりするにはいいですが、あまりたくさん張りすぎると、重厚間が増す分個性が強くなります。建物のイメージが偏ってくるので、10年くらい先を考えたとき飽きがこないか。周辺の街並みに対して妙に浮いている感じ・違和感が出ないか。

個性的な家は、目だってカッコいいですし、カッコいい家に住んでいるという満足感があります。(スポーツカーに乗っているような。)

でも、個性的な家だと、家によって住んでいる人のイメージがつけられていきます。

本来、住んでいる人の生活観が家ににじみ出てきて、家のイメージができていくべきです。

庭の植え込みやプランタ、鉢植えなどの置き方、自転車とか車を駐車場に置いてある状況、洗濯物が干してあったりもします。窓のカーテンのデザイン、窓越しに見える家の中の家具の雰囲気。そういったものから家のイメージが見えてくると思います。

それが、「家も家族の一員」という付き合い方だと思います。

と考えると、あんまり家のイメージを強くしすぎない方がいいので、普通になっていくんですね。

「ただ普通な家じゃ、誰が設計しても一緒だ」

と思うのですが、普通じゃない家 お客さんそれぞれの個性が表れる家は、視覚で感じるよりも、雰囲気を感じるものです。それは、窓の位置だったり、部屋の空間づくりだったりします。

庭木を植えて、プライベート空間の庭と区切ります。
視界に緑が入ってくると、安らぎを感じる効果があります。
緑は癒し効果がありますから。



玄関ポーチを支える袖壁部分に、スリットを設けて、ニッチとして利用。ここに置物や観葉植物をぶら下げたりして、飾りつけると楽しいと思います。

玄関ドアは、ちょっとかわいいデザインのものを選択。
家の中に入る際の待ち遠しい気持ちの演出には、温かみがあるデザインの方がいいと思います。



玄関へ導かれる雰囲気のアプローチ。奥にある植木で、庭(プライベート空間)との区切りと、視覚的に安らげる雰囲気を与えます。

アプローチのポイント

アプローチは、真っ直ぐ一直線に玄関へ伸びるのではなく、ちょっとひねったり流れるような形にすると、家の圧迫感を押さえられます。門の正面に玄関ドアがデン！と見えると、なんか身構えてしまいますから。

郵便ポストは、結構家の前を歩く人の目に飛び込んでくるものです。
かわいいポストを置くだけでも、家の雰囲気が変わってきます。(写真2)



写真2

アプローチの大切さ

視覚的なデザインで、家を出入りする人に印象付けるのではなく、そこに立ったときの雰囲気で心地いい印象を与えます。

道路から玄関までのアプローチの長さが短い場合でも、このようにちょっと斜めから入るようにするだけで、ゆったりとした雰囲気になります。

アプローチの側に設置する、ポストや門扉、植物によって、家に住むご家族の印象が感じられます。

かわいい感じの人なのか、落ち着いた感じの人なのか、社交的な人なのか、おとなしい感じの人なのか…。

外構計画、アプローチの計画も、家づくりの大切な1項目です。

プライバシーの確保と開放性の両立

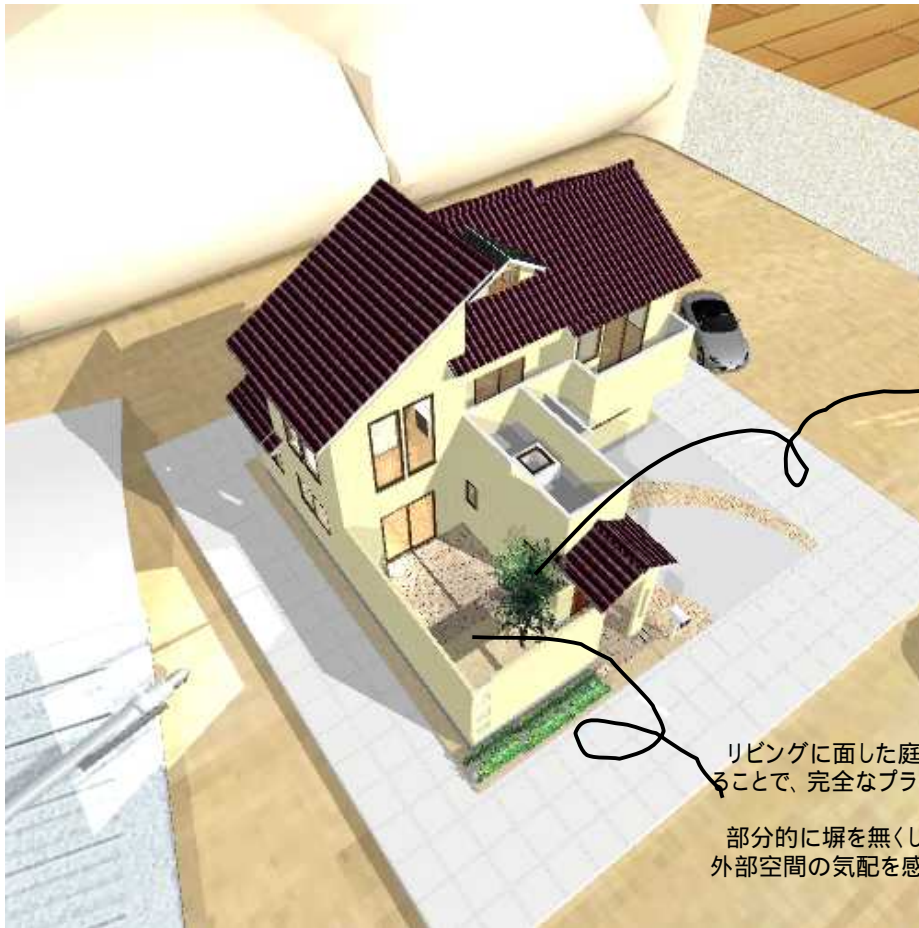
「家の中では、リラックスできて家族の交流を大切にしたい。」

というご家族をイメージして家を計画しています。

家の外の視線、ご近所の家の生活観や地域環境に影響されない、家族だけの空間づくりが、リラックスできて家族の交流を深める為には大切です。

かといって、完全に外部空間と家を区切ってしまい、内と外の繋がりが無くなってしまうと、閉鎖的で内気な家庭環境になってしまいそうです。

そこで、道路から奥に控えた位置に建物を配置して、外部環境と距離を置いています。距離をとってから大きな窓を設置しているので、外部空間を意識せず、開放性を確保することができます。家の開放性近隣に面する窓は控えめにして、プライバシーを確保します。



この木が、大切な役割を果たしています。

リビングに面した庭部分は、1階の高さがある塀で仕切ること、完全なプライベート空間を確保します。

部分的に塀を無くしたり、小窓を設置したりすることで、外部空間の気配を感じられるように気を配っています。



塀の一部に小窓を設置。スリガラスにすれば、視線は気にならないですが、道路を行き来する人や車の気配を感じることができます。

塀を止めて、外が見えるようにします。手前に植木を植えると、枝や葉の間から見えるようになり、落ち着きと安心感を確保できます。

完全な閉鎖空間にしてしまうと、外で何が起きているのかわからなくなるので、かえって落ち着かない空間になってしまいます。

ある程度は外部の気配を感じられるようにしたほうが、圧迫感を感じません。



一見外部から見ると、それほど開放性が無いように感じますが、一歩敷地内に入り込むと、ゆったりとくつろぎたいリビング空間は、大きな窓を設置して開放感あふれる空間を作り出しています。

家の外からの視線と、家の中からの視線の違いを考えながら、設計を行っています。

「家の中ではリラックスできて、家族の交流を大切にしたい」というイメージ。

リラックスして心を穏やかに過すには、のびのびと開放的な空間が必要です。やはり、リビング空間は吹抜けにして広がりのある空間にしたいところです。

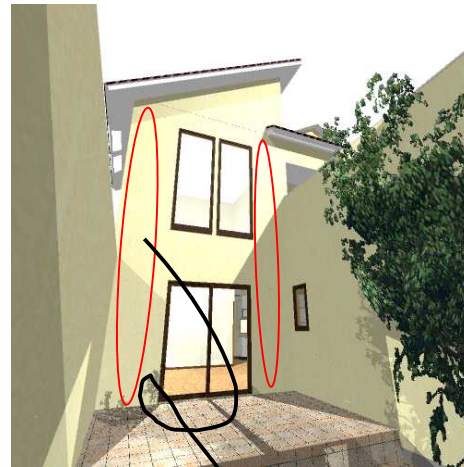
家族の交流として、リビングからフラットに出入りできる庭を計画。「天気がいい日はちょっと庭に出て食事」や、「夜空を眺めながら花火をする」など、いろいろ家族で楽しめます。



隣の家から、覗き込まれるのではないかと心配があります。

隣の家の2階の視線は、こんな感じです。

リビングのソファに座ってくつろいでいる様子を想像した場合、視線が気になる位置は壁で遮られていることがわかります。



建物の角部分は、耐力壁を設置することに勤めます。

大きな窓をとって、開放性を重視するあまり、耐震性が損なわれるのでは「安らげる家」とはいえませんが。





家も家族の一員という存在、愛着を感じながら、家族と一緒に暮らしていく家、そういうことをイメージしながら計画した「三つ屋根の家」。

家の中の様子はどんな感じか、どんな思いを詰め込んだ設計になっているか、ご案内いたします。



玄関 ドアを開けると、4帖弱程の閉鎖的な空間が玄関ホールになっています。

玄関ホールを、閉鎖的な空間にしているのは、その奥にあるLDKの空間への期待感、誘い込み効果を持たせる為です。

玄関の天井は、ちょっと低めに抑えて、玄関框から奥のホール部分は、天井を高くしてトップライトを設置しています。

手前が低くて、奥が高くなっていることで、広がりを感じる効果を持たせます。

天窓から降り注ぐ光りが、ちょっと神秘的な感じさえ与えてくれるはずで。

LDKの手前の空間の効果によって、LDKに入ったときの爽快感、安心感、やすらぎ感などを感じることが出来ます。



下駄箱の上に小物を置いたり、壁面に雑貨を取り付けたり絵を飾ったりすることで、いろいろ玄関ホールをアレンジできます。



玄関ホールから玄関ドアに向かったとき、側にある小窓から庭木が見えます。

全く外が見えない空間から、ドアを開けて外へ出るときは、ちょっと閉じこもった感じの気持ちになりそうなので、外の様子を感じられる小窓を設置しました。

植木の緑が、リラックス効果も与えます。



玄関ホールを抜けてドアを開くと、広いLDK空間が広がります





2階へ繋がる階段はもちろんリビング内階段です。

学校から帰ってきた子供達の様子が必ず見えるように。

子供が友達を連れてきたりすることもあると思います。何人来たのかな？ケーキでも出してあげようかな、とか。

キッチンで夕飯の準備をしている時に帰ってきたら、
「今日は何のごはん？カレーだ」
とか、いろんな会話が弾むことでしょう。

リビング内階段のデメリットは、エアコンの効率が悪いということ。

その為に、階段とLDKを仕切れるように、引戸を設置しています。寒かったら締めるといいです。

リビングダイニングキッチン

家具やインテリアによって、いろんな雰囲気を出せます。

階段部分は、カウンターとして使うと、雑貨を置いたりいろいろ楽しめます。



階段の手摺は、建築基準法で設置が定められています。但し、下から1m以内の部分には手摺設置の基準が適用されません。

出来る限りすっきりさっぱり、手摺が無いほうが開放感があるでしょうが、安全性への気配りも、安らげる家づくりには重要なポイントです。



リビングと繋がる庭



庭にテーブルや椅子を置いて、リビングの延長として楽しむことができます。





リビング は、開放的な吹き抜け空間です。

大きな窓から、いっぱいの光を取り入れて、穏やかな時間が過せます。



吹き抜け空間は、壁面が多くなるので、絵や雑貨を掛けたりすると、雰囲気が変わってきます。



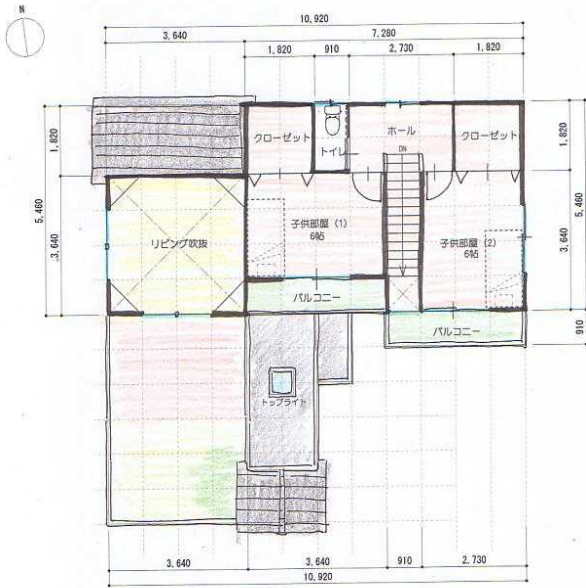
空間の雰囲気は、設置する家具やカーテンなどでいろいろと変わってきます。

かわいい雰囲気、落ち着いた雰囲気、重厚間のある雰囲気、いろいろと演出することができます。

いろいろな家具のイメージにできるように、壁や床・天井などの建物自体の仕上げは、ごちゃごちゃせずシンプルにデザインするほうがいいです。

カントリー調などのデザインにすると、かわいいんですが、家具などのデザインも限定されますし、違うテイストの家具を持ち込むと、違和感のある空間になってしまいます。





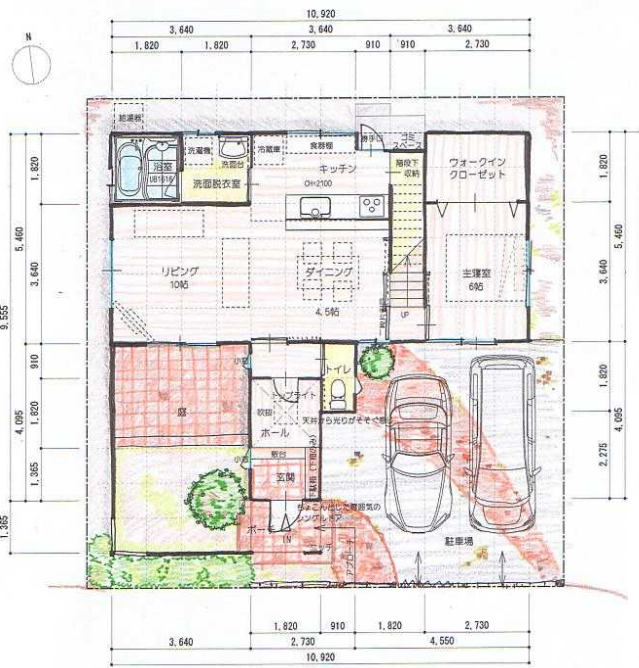
2階平面図

三つ屋根の家

1階床面積 67.90㎡

2階床面積 35.60㎡

延床面積 103.50㎡(31.3坪)



1階平面図

